

絵画鑑賞の実践的指導

「鑑賞」とは如何なる活動なのか、そして「絵画の鑑賞教育」にはどのような手法があるのかを、学生への指導実践例をもとに平易に解説する。

担当：北教大岩見沢校 新井 義史

絵画鑑賞を考える

1. 鑑賞とは？
2. 感想と批評
3. 感想にもイロイロある
4. 感想の種類とレベル
5. 分析・解明の事例
6. 鑑賞能力の発達段階

実践事例

1. 作品を見る順序を知る
2. 比較して見る
3. 東洋と西洋の静物画のちがいを
4. 絵画のルールを考える
5. 造形心理に気づかせる
6. ヘタウマの元祖



I. 絵画鑑賞を考える

1. 「学校教育」の鑑賞教育???

よくわからん

2. 「美術館教育」の鑑賞教育方法は？

国内の新設ミュージアム

- こどもの城(1985～)
- 岡崎世界子ども美術博物館(1985～)
- 川崎市民ミュージアム(1988～)
- 横浜美術館(子どものアトリエ)(1989～)
- 水戸美術館(1990～)

調べてみた

特別にも...

3. MoMA(NY近代美術館)

(世界で最も進んだ美術館教育)
研修会 1993年12月

行ってみた



「感想だけでも立派な鑑賞」

感想



美術感想文

感想文 「おちほひろい」 あらい

直感的鑑賞II 感想 の例

遠くの方には、収穫を終えた荷車いっぱいのおちほの荷馬車がある。左上のごんもりとした黄土色は小麦を積み上げたものだ。結構とれたな。良く見ると人がいっぱいいるな。右側には家の屋根があるな。馬に乗った人もいるな。すぐく上手だな。好い色だな。静かな感じだな。農村の秋の、収穫が終わるころのちよつとうれしさもあるのかな。のどかだな。やっぱり名画だな。



キャプション

分析的鑑賞の例

【題材】 この作品の抜群の好感度と親近感の要因は、なによりその題材にある。落穂拾いは、未亡人、老人、孤児などの貧しい人々に、収穫の後の畑に散乱した落ち穂を拾わせる、中世来の習慣である。農村共同体が弱者を保護するためのものであった。ミレーの落穂拾いは、この貧窮を象徴する過酷な農作業を描く作品である。

【造形性】 感傷的な画風とともにミレーを特徴づけているのが、骨太の確かな造形である。この造形はフランスのロココ絵画のモデリングの成果を継承したものである。陰影を用いて視覚を錯覚させて平面上に立体的ならみを感じさせるのがモデリングである。モデリングは絵の上手い下手が、素人目にも一番分かります。ミレーの基礎である。ミレーの画風の特徴は、シャルダンと似たようなモデリングと、フェルメールの色彩をともに取り入れたところにある。ミレーの落穂拾いは、保守的批評家に「貧者の三美神」と揶揄されつつも、時代の機運をこらえ、感傷的な農民画のブームを引き起こした。

【評価】 神や聖者や英雄を主人公としていた絵画が、市民とその生活を主題とし始めたのはやがて17世紀に入ってからのこと。このミレーの作品のように、まったく無名の労働者を堂々たる筆致で描く絵画は19世紀になって初めて登場した。写実主義を代表するグループと並んで、ミレーは写実主義の立場から独特の力感あふれるモデリングによって、市民感覚あふれる造形を確立した。

批評

味わい 理解する



感想にもイロイロある

学生の感想を 分類してみる

絵画を見て、何を感じ・考えるか

ピカソ作 「腕を組んで座るサルタンバンク」

鑑賞記録-H1011月 釧科大美術科 1年生 11名

①

- A、イタリア人のダンスの先生が、生徒の踊りをチェックしているように見える。
- B、どこかの都会の郊外の結構高さのあるマンションの一室の天気の良い土曜日の午後という気がする。

②

- C、椅子の色が良い。
- D、妙な髪形と髪の色
- E、色使いが自分の好み
- F、嫌い、特に顔が気持ち悪い。手や足の組み方が不自然。

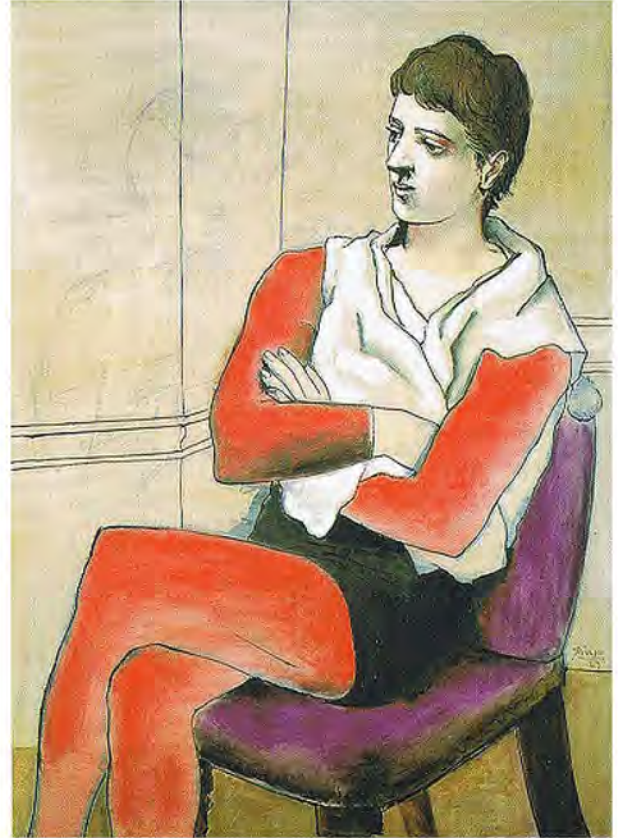
③

- G、ナイーブな感じ
- H、物憂げな表情にも穏やかな表情にも見える
- I、柔らかい雰囲気、静か
- J、きれいな女の人だ
- K、多分男なんだろうが、オカミみたいな顔をしている。
- L、殺風景だなあ。
- M、年齢は20歳代後半のようだ。
- N、顔だけ妙にリアルで、体は平面的。

- O、壁のたての線が曲がっているように感じる。
- P、影がない。
- Q、肌に色味がない。
- R、輪郭線が強い。線が目立つ。

④

- S、男か女か区別できない。
- T、どういう服を着ているかわからない。
- U、上に着ている白いものは何だろう。
- V、どちらから光が当たっているかわからない。
- W、奥行きのないバックはわざとなんだろうか。
- X、腰から尻が真っ黒でよくわからない。
- Y、この人はなぜこんな格好をしているのかな。
- Z、どんな画材で描かれてるのかな
- a、ポーズしてるのか、考え事してるのかな。
- b、この人は作者とどういう関係にあるのかな。



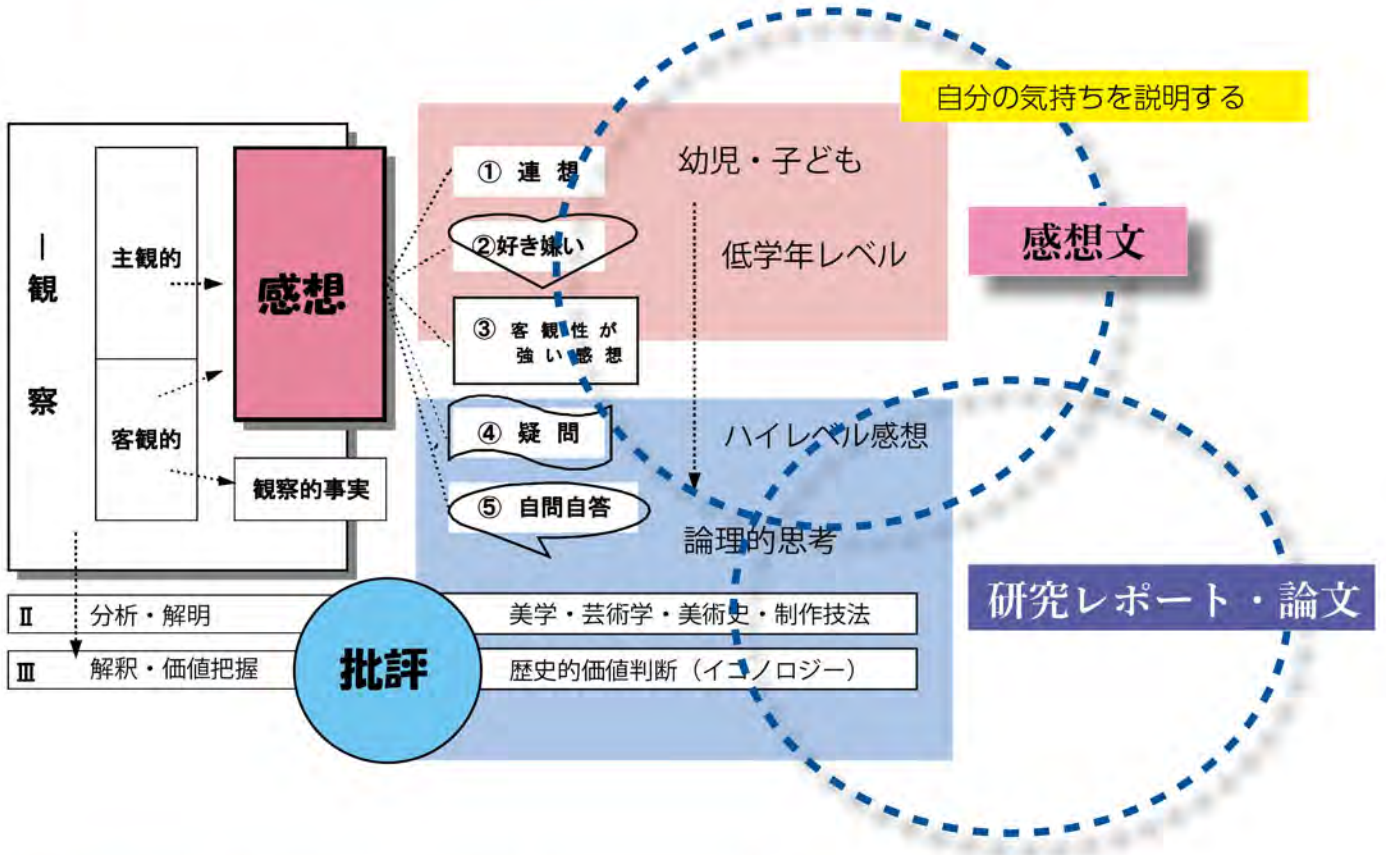
⑤

- c、作者はもっとリアルに描けるはずなのに、なぜこういう描き方をしたのかな、と考えると、力の抜けた気だるい感じを出したかったからだと思う。
- d、この人の着ている上着の赤と、タイツの赤が同じだから、上下つながっているタイツかな。
- e、体格からして男だとおもうけれども、色っぽい目つき、顔つき。
- f、都会の生活を自由気ままに楽しむ青年っぽいかな。でも、やっぱり、気ままな生活の中にも悩みをかかえていそうだな。

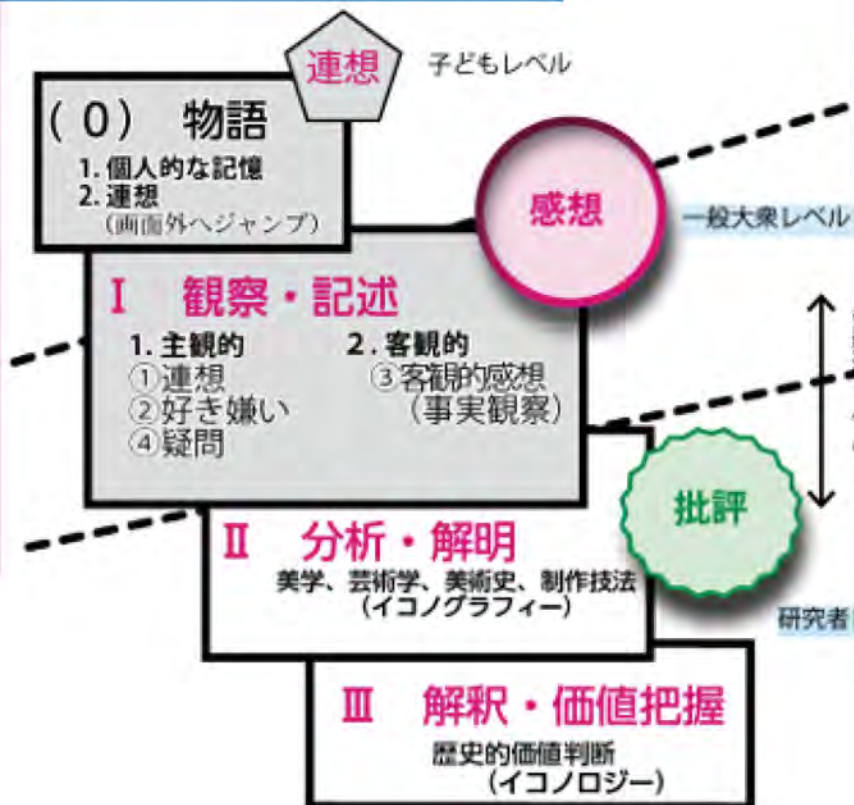
II

- g、ピカソの絵だ
- h、構図はオーソドックス
- i、制作時期は19世紀末～20世紀初期ぐらい。
- j、人物自体は斜めだが、支えるように構図が重い三角形になっていると思う。
- k、絵具を平らに塗っているのに、頬や顎、脚にも肉感や厚みがある。

鑑賞の、基本は感想



作品理解の三段階説



分析・解明の事例

◆ 観察・記述

・5人の人物
・何をしてるんだらう？

・若い女性
・目隠し
・手探りで何かを探す
・神父が手助け

・右の男の斧
・左の二人が気絶

・断頭台 ワラ

首を切られる場面だ！

10代後半かな
可哀想だなあ



レディ・ジェイン・グレイの処刑

それぞれの作品に隠された背景を知ることでゾッとさせられる展示演出がミソ

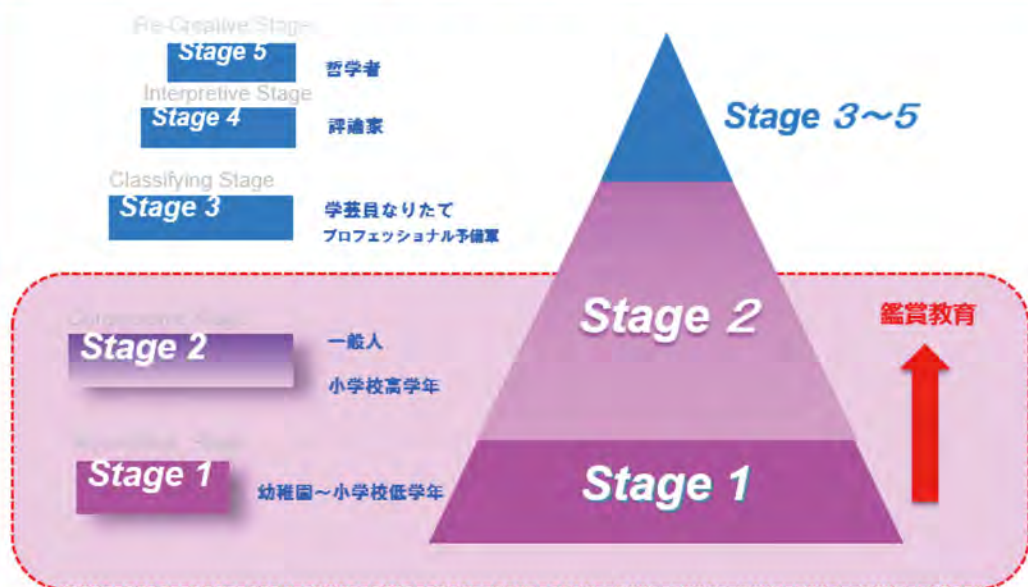
そもそも美術展の楽しみ方というところ、作品にまつわる知識うんぬんよりも、絵をじっくり眺めてしみじみと良さを噛みしめるのがいい。

ただ、この「怖い絵」展に関しては、作品脇にある解説パネルを読み込み、「なぜ怖いのか」という知識を頭に入れたうえで絵を観て欲しい



鑑賞能力の発達段階

教育II発達段階に応じた適切な指導



鑑賞能力の発達段階

ステージの特徴

Stage 1

説明・記述ステージ

幼稚園～小学校低学年のころ
自分勝手な大人

- A, 作品を見る時間が極めて短い
- B, 作品について話す時間も極めて短い、
- C, 内容と自分の経験とを結び付ける、
- D, 主観的な反応のみ、自分の主観を言うことに満足している、
- E, 好き嫌いを明確に表現する、
- F, 鑑賞行動にシステムが無い、質問も浮かんでこない、
- G, 作者の存在を意識しない、
- H, 自分の経験のみで語る、
- I, 無知に根ざしたオープンさを持ち、思考を止める制限がない

Stage 2

構築段階

小学校高学年～一般人
ほとんどの人が該当する
すごく幅がある

鑑賞教育

- J, 作品を理解したいと望んでいる
- K, 理解するためのテクニックを学ぼうとする
- L, 質問が浮かんでくる
- M, 私はこう思う...なぜならばと言えるようになる
- N, 見て感じたことを、作品の中の情報により理論的に説明しようとする
- O, 部分だけでなく、全体との関係で見ることが出来る
- P, 作者の存在に気づいている、作者の意図を見つけようとする。
- Q, 特別な美術言語は必要ない
- R, 自分が知らないことに気づいている
- S, いろいろな解釈をすることができる。
局所的な知識をもつ

Stage 3

分類段階

芸術学卒
学芸員なりたて
プロフェッショナル予備軍

- T, 作品の善し悪しを言わない
- U, 自分の判断を言わない、他の情報を重視している
- V, 作品をとりまく情報だけに興味がある
- W, 全部知っていないから分からないと思っている
- X, 情報に価値を置く
- Y, 正しい判断をしたいと願っている

Stage 4

解釈の段階

美術史家
評論家

- Z, 作品を自分で翻訳、解釈する姿勢がある
- Aa, 自分の知っているある範囲の知識にわりと満足している
- Ab, アートが自分にとって意味のあることを理解している

Stage 5

再創造段階

哲学者

- Ac, 美術に対する膨大な情報量を持っている
- Ad, 自分が知らないことをストップさせない
- Af, 喜びをもって考えたり理解していく
- Ag, アートは最良の友であり空気のように必要な存在となっている。
- Ah, 興味も知識もユニバーサル. アートなら何でも興味がある

よく見る・長く見る

質問する

経験から引き出せる質問 (初心者)
 一般的質問 「…これは何？」
 誘導する質問 「…を、見てごらん」
 「…から、どんなことが解る」

謎解き

→

発見・驚き

答えを発見した喜び

話し合いを楽しむ

答えは必ず受け止める
 OK、分かった、だけでも安心感を与える
 間違った答え → みんなはどう思う？
 意見交換を通じて 主観的解釈以外の理解があることに気づく

理解の方法

作者を知る

エピソード紹介

VTR

感想

→

批評の入り口

感想文を書く

→

レポート

→

論文

作品選定

シンプル

写実

◎：物語 X：印象派

一人 → 2人

自国の文化 (身近・価値観)

作品を見る順序

観察・記述
 ディスクライブ

素直に、
 見えている内容を
 説明する

ドラマを見るように

①全体を見渡す

②中心は？(主役さがし)

目立つ部分はどこか

③脇役は？

主役との関係は？

④周囲の状況

バック・道具立て

⑤意味は？ ← 知識を動員
 (分析活動)

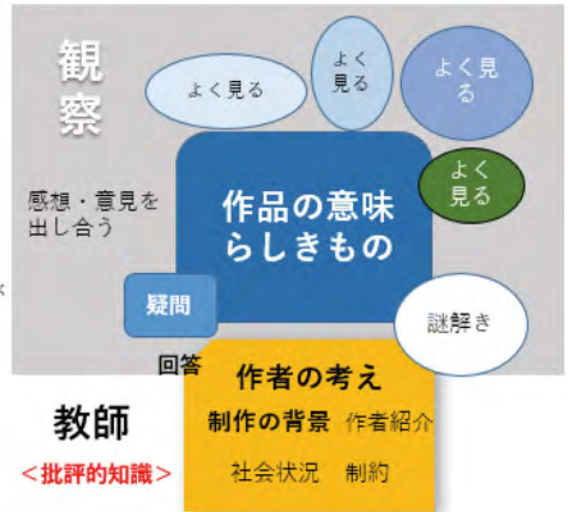


"Bonjour Monsieur Courbet"



「カレーの市民」 オーギュスト・ロダン

生徒



よく見るレッスン (比較法)



ヤン・ブリューゲル



カルフ



ボージャン



「四季花鳥図」 狩野元信



シャルダン「赤エイ」



牧谿筆の《老子像》



モナリザ

なぜ解き



T.ルソー

ヘンなところ



セザンヌ「さくらんぼと桃」



セザンヌ「赤いチョッキの少年」



アンリ・ルソー 「私自身、肖像=風景」



ベン・シャーン 「Allegory」

いろんなヘタウマ (素朴派)

国吉康雄、萬鉄五郎、熊谷守一、中川一政

美術感想文による指導

目的

よく見る・長く見る

教養を高める=言葉を習得する
主に右の四つに分類される。

感想文による美的言語の育成 (詩的)

- 1、知識力 たくさん言葉を覚えること
- 2、構成力 覚えた言葉を巧みに構成する
- 3、想像力 言語外言語での関係を構築する
顔の表情、顔色、視線、身振り、手振り、体の姿勢
- 4、美的感覚 言葉の持つ芸術的要素



しかし、この推測には疑問があります。この絵の空の色を見てください。灰色で雲が低く、今にも雨が降りそうです。私でしたら・・・

彼女はたどり着く先である家を見つと、強い眼差しで見つめていたのでしょう。クリスティーナさんの背中と大地を踏みしめる手に込められた力強さと、彼女の屈強な精神が描かれている素敵な絵です。

学生の感想文より

アンドリュー・ワイエス アメリカ美術の歴史
「クリスティーナの世界」 PAOLO版

背を向けた**びっこの少女**が丘の上の農家を目指して荒涼とした斜面を**いざり登り行く**。

彼女が必死になつて、這い登ろうとしている丘の斜面をその肩越しに見あげると、われわれは彼女の目を通してこの世界を見ているのである。この丘を登るのは実際以上に骨が折れるように思われるし、広い斜面は心を挫けさせるほど寂しく感じられる。

この世界は実際にオルソン家のクリスティーナと弟が住んでいたメイン州の農場を描いたものである。

「ワイエスは、台所で車椅子を使わずに這っている彼女を見て野原に置いてみよ」と考えた。後ろ姿に描くことで、彼女の眼が見ている世界を、鑑賞者にも見てほしい思っただろう。」



<参考> 物語を語らせるのに、適した作品



「ロシアに、ロバに、その他のものに」

シャガール



「彼女を巡って」



雪舟「慧可断臂図」



切り落とした腕に血が！



ワッツ「希望」



1本だけ残った弦に…



ヒューゴ・シンベリ『傷ついた天使』



マツユキノソウ (snowdrop)



レーピン「ヴォルガの船曳き」



ベラスケス「ラス・メニーナス」

鏡の中の、ポケタ王と王妃



A, 美術科教育

- | | | | |
|-----|------------------------|--------------------------|-----------|
| A-1 | 図工・美術教員の研修の現状（1） | —釧路管内の教員を対象としたアンケート調査から— | 1995/03 ① |
| A-2 | 図工・美術教員の研修の現状（2） | —指導者の支援機関について— | 1995/08 ① |
| A-3 | 子どものための造形教育施設の考察 | | 1997/02 ① |
| A-4 | デジタル・グラフィック教育への視点 | | 1998/10 ⑦ |
| A-5 | e-ラーニングの手法を用いた美術史学習の方法 | | 2009/03 ④ |

B, 鑑賞教育の指導スキル

- | | | | |
|-----|------------------------|------------------------------|-----------|
| B-1 | 鑑賞教育における観察段階の指導について（上） | —MOMA：ティーチング・テクニク・ワークショップより— | 1995/12 ① |
| B-2 | 鑑賞教育における観察段階の指導について（下） | —MOMA：ティーチング・テクニク・ワークショップより— | 1996/11 ① |
| B-3 | 鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性（1） | —感想内容のタイプと美術感想文のスタイル分類— | 2006/02 ① |
| B-4 | 鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性（2） | —質問法による解釈の事例— | 2006/10 ① |

C, 批評的観点による鑑賞指導の方法

- | | | | |
|-----|------------------------|--------------------------|-----------|
| C-1 | 美術批評の観点による鑑賞指導の方法 | —ミケランジェロ作「ダビデ」の授業例— | 1997/11 ② |
| C-2 | 美術科の題材開発における文献資料の活用（1） | —モンドリアンの教材化による事例— | 1997/08 ① |
| C-3 | 美術科の題材開発における文献資料の活用（2） | —カンディンスキーの教材化— | 2000/11 ② |
| C-4 | 文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育（1） | —仏教の造型（仏像）— | 2002/09 ① |
| C-5 | 文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育（2） | —水墨画— | 2003/02 ① |
| C-6 | 文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育（3） | —メディアの観点による浮世絵版画へのアプローチ— | 2008/02 ① |
| C-7 | 絵画制作におけるイメージ形成の指導 | —C.D. フリードリヒの象徴と崇高の理解— | 2009/08 ① |

D, ワークショップと造形教育

- | | | | |
|-----|-----------------------|-------------------------------------|-----------|
| D-1 | ワークショップと造形教育（1） | —実践報告：コラボレーション／釧路市公民館フロタージュ・プロジェクト— | 1993/07 ① |
| D-2 | ワークショップと造形教育（2） | —ワークショップの拡がりとその理念— | 1996/02 ① |
| D-3 | アート・カンテラづくりワークショップの実践 | —使用済み斗缶のカンテラへの利活用の事例— | 2003/02 ③ |
| D-4 | 地域情報パンフレット制作による総合演習 | —フィールドワークを生かした視覚デザインの指導— | 2010/02 ⑥ |

E, 抽象絵画の心理構造 【別刷：抽象絵画の心理構造 2009～2017 科研費による成果】に掲載

- | | | | |
|-----|-------------------------|----------------------------|-----------|
| E-1 | 非再現的ドローイングにおける視覚的力動性の検証 | | 2011/03 ① |
| E-2 | 抽象絵画の構造理解（1） | —視線測定データの分析— | 2014/03 ① |
| E-3 | 視覚心理の観点による抽象絵画の構造理解 | —視覚の生理的メカニズムから生じる画面構造のしくみ— | 2015/05 ⑤ |
| E-4 | 身体感覚の観点による美的形式原理の理解 | —抽象絵画の普遍的心理構造の検討— | 2016/03 ⑤ |
| E-5 | 構成的観点によるコンポジションの心的理解 | —造形用語を活用した絵画構造の検討— | 2017/03 ⑤ |

< ■ 発表誌 >

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| ① 北海道教育大学紀要（第1部C） | ⑤ 芸術・スポーツ文化学究（芸術・スポーツ文化研究会編） |
| ② 釧路論集第（北海道教育大学釧路校研究紀要） | ⑥ 大学美術教育学会誌 |
| ③ 環境教育研究（北海道教育大学環境教育情報センター紀要） | ⑦ 日本教育大学協会 全国美術部門 —三次報告書— |
| ④ 年報岩見沢（北海道教育大学岩見沢校研究紀要） | |

論文概要

A, 美術科教育		
A-1	図工・美術教員の研修の現状（1） — 釧路管内の教員を対象としたアンケート調査から —	教員の教材研究に対する関心と実践状況、指導上の悩みや問題点、さらに指導者育成機能をもつ社会教育施設として設立予定の釧路芸術館（仮称）に期待する機能などを質問紙法によって調査し、分析・考察した。さらにそれぞれの教員の要求の違いを、大学教育での美術の専攻経験の有無や美術の免許の有無という観点から捉え、様々な教員の支援を保障する機関のあり方を考察した。
A-2	図工・美術教員の研修の現状（2） — 指導者の支援機関について —	
A-3	子どものための造形教育施設の考察	学校外の「子どものための造形教育施設」の現時点での状況確認を行うことを目的とした。社会教育としての新たな施設例を中心に、新しいタイプの3施設を取り上げ検討を加えた。
A-4	デジタル・グラフィック教育への視点	今日の絵画および絵画教育が抱えている問題点を再確認した上で、グラフィック教育へのデジタル化の導入について考察した
A-5	e-ラーニングの手法を用いた美術史学習の方法	入門的・概論的内容への学習意欲や動機付けのための授業内容の工夫が求められている。本稿は、受講者が自由記述した授業感想文をもとに、オンデマンドVTR視聴による美術史学習の方法を検証した。

B, 鑑賞教育の指導スキル		
B-1	鑑賞教育における観察段階の指導について（上） — MOMA：ティーチング・テクニク・ワークショップより —	ニューヨーク近代美術館 (MOMA) において、その教育理念および方法について研修する機会を得た。先進的な美術館での諸実践を検討することは、今後の学校教育での鑑賞教育を確立するための有意義な方法の一つであると考えられる。本稿では MOMA の教育プログラムの基本に置かれている「ステージ理論」およびステージ理論の理解のためのワークショップ部分の実際を報告した。
B-2	鑑賞教育における観察段階の指導について（下） — MOMA：ティーチング・テクニク・ワークショップより —	MOMA では多くのボランティアたちの手によってビギナーに対する鑑賞教育の実践と、美術館職員による地元の学校教員への再教育が行われている。本稿では、MOMA におけるビジュアルリテラシー教育、それにもとづいたギャラリーリトークの実際を報告し、絵画鑑賞の際の観察段階の指導法について述べた。
B-3	鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性（1） — 感想内容のタイプと美術感想文のスタイル分類 —	美術作品を見た感想文を「美術感想文」と呼び、6年前から演習の一部や講義後の課題に活用してきた。本稿は、鑑賞教育方法としての可能性を検証する目的で行った、美術感想文に対する「タイプ分類」「スタイル分類」の2種類の分析結果を報告した。
B-4	鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性（2） — 質問法による解釈の事例 —	本稿では、シャガール「誕生日」および、クレー「パルナッス山へ」の2種類の絵画を鑑賞対象とし、「質問法」を取り入れた感想文の分析結果を報告した。結果に関しては、2作品に対する学生の記述内容を分類・要約して一覧表にまとめる形で整理した。まとめでは、美術感想文における質問法の扱い方と、感想文を教育活動に活用することの効用に関する意見を述べた

C, 批評的観点による鑑賞指導の方法		
C-1	美術批評の観点による鑑賞指導の方法 — ミケランジェロ作「ダビデの授業例」 —	批評的観点による美術鑑賞教育に関する論考（鑑賞と美術批評、アイズナーの批評学習）および美術科の1年生を対象にした「ダビデ像鑑賞」の授業記録概要とその分析について述べた。
C-2	美術科の題材開発における文献資料の活用（1） — モンドリアンの教材化による事例 —	幾何学的抽象表現の代表者として知られているモンドリアンを例に取り上げ、彼の作品における造形要素の果たす意味を文献資料をもとに解釈し、それを生かした教材化の例を示した。
C-3	美術科の題材開発における文献資料の活用（2） — カンディンスキーの教材化 —	抽象絵画の教材化「その2」として、表現主義的抽象のパイオニアであるカンディンスキーについて述べたものである。基本的には前稿のモンドリアンの場合と同様な構成とした。モンドリアンと今回のカンディンスキーの両名をセットにして、抽象絵画の教材化例としたい。
C-4	文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育（1） — 仏教の造型（仏像） —	東洋美術における鑑賞教育の指導の留意点を、以下の4つの観点から扱った。(1)日本人の西欧的文化への意識傾斜の問題点、(2)批評的・歴史的鑑賞方法の必要性、(3)東洋と問、洋の芸術観・芸術論の相違の認識、(4)比較文化の観点による文化理解。

C-5	文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育 (2) —水墨画—	中等・高等教育における芸術教育では、人格形成よりもむしろ文化理解としての側面を重視し、そのための教育プログラムを構築していく必要があると考える。したがって本稿では、東洋画において主要な役割を果たした水墨画について、西洋と東洋の絵師表現の相違を述べ、さらに水墨画に関する鑑賞教育の具体的な事例を紹介した。
C-6	文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育 (3) —メディアの観点による浮世絵版画へのアプローチ—	浮世絵版画が制作された当時の文化的背景ならびに大衆による受容状況を考察し、加えて2点の鑑賞事例を検討した。これらの考察を通じて、浮世絵版画は大衆の嗜好に合わせて制作販売された実用品であり、今日のジャーナリズムの活動にきわめて近いものであることを指摘した。「3. 鑑賞事例」では、浮世絵版画の生産と受容に触れうる鑑賞指導の具体例を提示する目的で、内容の読み取り例を示した。
C-7	絵画制作におけるイメージ形成の指導 —C.D. フリードリヒの象徴と崇高の理解—	C.D. フリードリヒは遠近法の軽視、平面性・抽象性の強調など革新的な表現を行った。さらに1960年代の抽象絵画との関連も指摘されている。この北方的イメージの一連の系譜を辿り教材化することは、入門期学生の絵画制作におけるイメージ形成の指導に有効な方法になると考える。本稿では、フリードリヒの作品における象徴表現と崇高表現を考察し、その指導のための方法を例示した。

D, ワークショップと造形教育

D-1	ワークショップと造形教育 (1) —実践報告：コラボレーション ／釧路市公民館フロッタージュ・プロジェクト—	老朽化により取壊しが予定されていた釧路市公民館の床面43メートルを「版」に見立て、版画の一手法であるフロッタージュにより原寸大に彫り取る集中講義を実施した。本稿では教員養成系大学美術科の実技授業改善の観点から、学習の場を地域社会に求めた実験的な授業形態として一連の経過を報告した。
D-2	ワークショップと造形教育 (2) —ワークショップの拡がりとその理念—	コミュニティ・デザイン・自己変革・カウンセリング・芸術の革新運動・美術館教育等で行われているワークショップの諸例をとりあげ、それらを通してワークショップとは、自己と環境に対する洞察と改変の意志を生み出す、能動的・生産的な創造的行為であることを明らかにしようとした。
D-3	アート・カンテラづくりワークショップの実践 —使用済み・斗缶のカンテラへの利活用の事例—	地元団体から依頼を受け、学生指導するかたちの造形ワークショップを実施した。資源の利活用、地域住民へのイベント、住民と学生との触れ合いの観点からの事例分析を報告した。
D-4	地域情報パンフレット制作による総合演習 —フィールドワークを生かした視覚デザインの指導—	素材を身近な地域社会に求め、フィールドワークで得た情報をパンフレットにデザインする内容の「総合演習」の授業実践を報告した。一連の経過とともに、受講生の感想文の内容を検討することで学習到達目標の達成度を検証した。

E, 抽象絵画の心理構造 【別刷：抽象絵画の心理構造 2009～2017 科研費による成果】に掲載

E-1	非再現的ドローイングにおける視覚的力動性の検証	カンディンスキーとアルンハイムの両者が重視した「視覚的力動性=緊張体験」の分析結果を、学生が作成したドローイングサンプルに適用し、その有効性を検証した。
E-2	抽象絵画の構造理解 (1) —視線測定データの分析—	注視点測定システムを用いて具象画・抽象画の視線を測定した。30秒間の視線移動の軌跡を「視線プロット図」で表わし、その視覚体験の「発語記録」を分析した。具象画・抽象画の感受内容の相違、観察時のスピードと方向、そして集中・分散、広角的視野、見方の経験差等の諸特性の確認ができた。
E-3	視覚心理の観点による抽象絵画の構造理解 —視覚の生理的メカニズムから生じる画面構造のしくみ—	抽象絵画が課題として担っていると考えられる非可視的な内容を、知覚や認知の基本的なメカニズムの観点から検討し、具体的な作品に関する構造分析事例を示した。
E-4	身体感覚の観点による美的形式原理の理解 —抽象絵画の普遍的心理構造の検討—	諸心理学における研究の成果から、造形や絵画表現の基底に共通する構造理解に有効な知見を整理した。特に「美的形式原理」に関する内容を文献から抽出・整理し、それらを「身体感覚」の観点から検討した。
E-5	構成的観点によるコンポジションの心的理解 —造形用語を活用した絵画構造の検討—	さまざまな造形要素を「層的構造」に分類・配置して、用語の相互関係を明らかにすることを試みた。さらにそれらの「造形用語」を用いて絵画作品の構造や特性の理解を行った。

◆鑑賞入門

◆絵画表現の基礎

◆古代・中世

回数	タイトル	Time
第1回	世界の美術館	
	1	ルーブル美術館 (1)
	2	ルーブル美術館 (2)
	3	NYの4大美術館
	4	メトロポリタンM (1)
	5	メトロポリタンM (2)
第2回	日本の美術館	
	1	前回のおさらい
	2	地方美術館の状況
	3	展示内容の問題
	4	西洋美術館
	5	東博
	6	都美術館
	7	福澤美術館 (改修前)
8	水戸美術館	
第3回	作品鑑賞の方法 (1)	
	1	志賀直哉の鑑賞論
	2	鑑賞の構造
	3	ミレー「落穂拾い」
第4回	作品鑑賞の方法 (2)	
	1	作品鑑賞の三段階説
	2	クールベさんごんにちは (1)
	3	クールベさんごんにちは (2)
第5回	美術・宗教・ヌード	
	1	宗教と美術
	2	ピーナスとは
	3	「ピーナスの巫女」
	4	神話・キリスト教・ロココ
第6回	日本の美術	
	1	水墨画
	2	香炉
	3	香炉「雄鷹山水図」
	4	日本美術TOP10
第7回	抽象絵画もコワくない	
	1	授業目的
	2	「ここが愛だよ日本の公共事業」
	3	奈良町現代美術館?
	4	抽象とは?
	5	実験絵画=抽象絵画
	6	ステラの具方
	7	制作 (VTR)
8	まとめ	

初回	ガイダンス	
	1-01	絵画の基礎 はじめ
第2回	肖像	
	2-01	モナリザ
	2-02	最初の肖像画
第3回	自然主義	
	3-01	ベラスケス
第4回	象徴	
	4-01	分かりにくさの理由
第5回	ヘタウマ	
	5-01	ヘタウマの先駆者・元祖・本家
第6回	POPアート	
	6-01	ブリテンPOP
	6-02	アメリカンPOP
第7回	抽象絵画入門	
	7-01	日本一意味不明な美術館
第8回	基礎平面	
	8-01	層的理理解と心理バランスの構造
	8-01	基礎平面の音色
第9回	美的形式原理	
	9-01	基礎平面の音色 統一・調和
第10回	視的要素・情動性	
	10-01	外部要素と内部要素、
	10-02	感情のメカニズム

回数	タイトル	Time	
第1回	原始芸術		
	1	西洋とは?	
	2	洞窟壁画	
第2回	エジプト (1)		
	1	ナイルとカー	
	2	ミイラ	
	3	ピラミッドと神殿	
	4	ツタンカーメン	
第3回	エジプト (2) ギリシャ (1)		
	1	正面性の原理	
	2	アマルナ美術	
	3	ギリシャ美術の源流	
	4	アルカイック期	
第4回	ギリシャ (2) 原始キリスト教美術		
	1	クラシック期 (2)	
	2	バルテノン神殿	
	3	キリスト教とは	
	4	中世アートの概要 (1)	
	5	中世アートの概要 (2)	
第5回	ビザンチン美術		
	1	バシリカ建築	15:51
	2	モザイク	12:38
	3	ビザンチン帝国	14:15
	4	ハギア・ソフィア	12:05
	5	ビザンチンアートの特色	19:20
第6回	中世初期美術		
	1	イコン	17:54
	2-1	西欧の民族移住	41:27
	2-2	ケルト・ゲルマン美術	
	2-3	彩色写本	
	2-4	カロリング朝美術	
	3	修道院とは	07:52
	4	修道院VTR	14:28
第7回	ロマネスク・ゴシック		
	1	修道院建築とロマネスク建築	35:58
	2	ゴシックの大聖堂	08:35
	3	ノートルダム大聖堂 (ランス)	08:50
	4	サン・ドニとゴシック建築の特徴	33:57

講義記録 VTR リスト

<https://araix6.jimdo.com/>

◆19世紀絵画

回数	タイトル	Time
初回	はじめに	
	1 七月屋より	9:49
	2 虫貝の問題	13:10
第2回	アカデミズム絵画	
	1 レディ・ジェイン・グレイの処刑	16:18
	2 ブーグロ	19:42
	3 ジェローム	20:46
	4 アカデミーとアカデミズム	13:13
第3回	革命期の絵画	
	1 新古典主義絵画	18:46
	2 エンバラススタイル	9:13
	3 ナポレオンの軍服式 (VTR)	14:52
第4回	メチューズ号の戦	29:01
	ヌードについて考える	
	1 ピーナスとは	14:47
	2 神話とキリスト教	14:28
	3 ロココ期のヌード	9:01
	4 アンクル「オダリスク」(VTR)	8:17
	5 マネ「オランピア」	13:35
6 「オランピア」(VTR)	3:07	
7 まとめ	13:40	
第5回	レアリズム	
	1 写実主義の位置	8:47
	2 クールベ (VTR)	5:10
	3 レアリズムとは何か?	15:26
	4 写実主義は現実主義	18:19
	5 マネ「草上の昼食」研究	10:21
	6 草上の昼食 (VTR)	5:00
	7 草上の昼食:疑問の解明	10:00
8 マネの革新	16:05	
第6回	風景画	
	1 マネ「バー」の研究	21:30
	2 フーコ解説「マネの絵画」	13:43
	3 風景画の変遷その1	13:20
	4 風景画の変遷その2	17:33
	5 コンスタブル (VTR)	5:17
6 フランス風景画を考える	12:54	
第7回	モネ	
	1 ハルビン派:ミレー	16:04
	2 コロー	11:13
	3 ルソー	9:02
	4 モネ:睡蓮の絵	12:27
	5 印象:日の出の雲味	18:00
	6 モネ作品の展覧	19:13
	7 睡蓮の絵解説 (VTR)	7:30
8 まとめ	5:00	
第8回	セザンヌ	
	1 変換絵画?	13:54
	2 知覚の恒常性とは	15:16
	3 視覚と造形性	22:38
	4 セザンヌ絵画の変換箇所	16:51
5 セザンヌの目的とは?	21:06	

◆抽象絵画

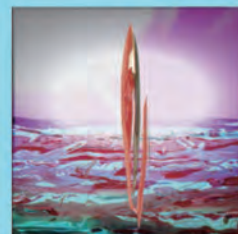
回数	タイトル
第1回	抽象絵画の概要
	1 国展の作品から (1)
	2 国展の作品から (2)
	3 抽象と抽象絵画
4 方法の概要	
第2回	キュビズムとは
	1 へんな絵の由来
	2 時代的背景 (VTR)
	3 影響:ニグロ彫刻とセザンヌ
	4 研究開発 (VTR)
	5 研究開発
6 キュビズムの展覧	
第3回	カンディンスキーの抽象
	1 なぜ、字を書かめたの?
	2 作品の発展段階
	3 抽象化の方法を探る
	4 <象と放浪の画家> VTR
5 まとめ	
第4回	マチス&モンドリアン
	1 マチスのフォービズム
	2 マチス絵画の特徴
	3 デフォルメ・まり絵・抽象
	4 マチスとピカソ (VTR)
	5 モンドリアン
	6 モンドリアン作品 (VTR)
7 なぜ水平・垂直・三原色	
第5回	アンフォルメルとは何か?
	1 モンドリアンと幾何学的抽象
	2 フォトリエとデュビュッフェ
	3 アルツング
	4 スラーヂュ
5 マチュエ	
第6回	抽象表現主義
	1 米MMOとホイットニーM
	2 アクションP
	3 サム・フランシス
4 フランケンサラー	
第7回	カラーフィールドP
	1 ルイス
	2 スティール
	3 ロスコ
4 ロスコVTR まとめ	
第8回	抽象の源流と変化
	1 元祖 ターナー
	2 本家 モネ
	3 奇人 イブ・クライン
4 踊る絵描き Jonas Gerard	

◆メディア・アート入門

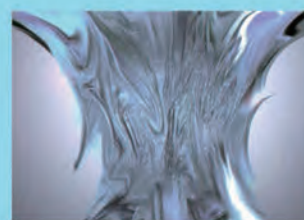
回数	タイトル	Time
初回	テクノロジーアートの系譜	
	1-01 ・メディアとは? ノト 池田亮司 キネティック・アート	37:22
	1-02 ・ライトアート オップアート ビデオアート マクルーハン	34:24
第2回	コンピュータとデジタル表現	
	2-01 ・最初のコンピュータ コンピュータアート ウゴウゴルカ	37:26
	2-02 ・2D-CG 3D-CG 自然な動き アルスエレクトロニカ	37:15
	2-03 ・まとめ	06:20
第3回	絵画メディアのメッセージ	
	3-01 ・自己表現とは何か? (奈良美智インタビュー)	37:20
	3-02 ・デジタルで描くということ FOTOLIAクリエイティブプロジェクト	37:20
	3-03 ・抽象絵画はどう見るか? (日常の抽象 具象画と抽象画の違い ステラを理解する)	15:56

回数	タイトル	Time
第9回	実験絵画・ムンクとゴッホ	
	1 前回の復習	5:00
	2 セザンヌの位置	10:16
	3 実験絵画の展覧 (キュビズム)	26:27
	4 ムンクの「叫び」	15:36
	6 「叫び」の展覧条件 (VTR)	5:00
	7 ムンクの狂気	6:25
	8 ムンクの完結論 (VTR)	5:39
	9 ゴッホとゴーギャン	6:37
	10 ゴッホ晩年 (VTR)	5:00
	11 ゴッホのサイプレス (別授業)	21:00
第10回	幻想絵画を楽しむ	
	1 ホス	12:11
	2 ホス2 (VTR)	6:22
	3 ホス3	7:42
	4 キリコ	21:12
	5 マグリット	12:52
	6 ダリ (VTR)	2:36
	7 ダリ	5:54
8 アンリ・ルソー	22:30	

Digital Graphics



大判プリンターを用いた
デジタルによる
ドローイング&ペインティング



Digital Graphics 展
新井 義史

2013 8月24日(土) ▶ 9月1日(日)
茶廊法邑

10:00 ~ 18:00
火曜休廊 最終日17時

札幌市東区本町1条1丁目8-27
TEL&FAX 011-785-3607

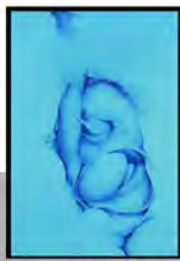
■HP <http://araix.web.fc2.com>

●連絡先 araix3@gmail.com





"WALL" F80号
1978



"WALL" F120号
1978



"ひとがたA" F100号
1979



"国境にてI" F80号
1981



"大あくび" F100号
1982



"世代I" P100号
1983



"傍観者K" F100号
1984



"時との対峙" F150号
1985



"黄昏のリズム" F150号
1986



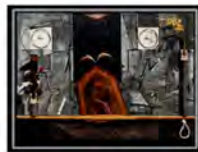
"木霊を聴く" 166×63 cm
1989



"オリオンの夏祭り" 210×183 cm
1989



"北緯43度Now" 280×183 cm
1990



"風の記憶" 103×73 cm
1988



"Emblem" 90×70 cm
1990



"花のように" 74×56 cm
1990



"Twin-Red and Black"
74×56 cm 1990



"S stream-せせらぎ" 500×150 cm
1991

■ 新井 義史 略歴

- ・1953 愛知県生
- ・1976 東京教育大学教育学部芸術学科卒業
- ・1978 東京教育大学大学院修了
- ・1978 神奈川県立希望ヶ丘高校教諭
- ・1981 北海道教育大学 / 釧路校 (助手・助教授・教授)
- ・2007 同上 / 岩見沢校に移動 (教授: 絵画 / 西洋画)

■ 作品発表・賞

- ・78 自由美術展 (東京) 佳作賞受賞
- ・82 自由美術展 (東京) 佳作賞受賞
- ・84 自由美術展 (東京) 佳作賞受賞
- ・第30回 新北海道美術協会展 (札幌) 協会賞・30周年記念賞受賞
- ・自由美術協会会員 (1985～1990 退会)
- ・新北海道美術協会会員 (1986～1992 退会)

現在：北海道教育大学岩見沢校 芸術課程美術コース
デジタル絵画研究室 教授

■ 著書・論文

- ・2002 「小学校図画工作科教育の基礎 図画工作のエッセンス」 (三晃書房)
- ・1997 「小学校図画工作科教育の基礎 一図工指導のエッセンス」 (三晃書房)
- ・2011 非再現的ドローイングにおける視覚的力動性の検証 (*)
- ・2009 絵画制作におけるイメージ形成の指導 (1) —C.D. フリードリヒの象徴と崇高の理解— (*)
- ・2009 e-ラーニングの手法を用いた美術史学習の方法 (*2)
- ・2008 文化理解を目的とする東洋美術の鑑賞教育 (3) —メディアの観点による浮世絵版画へのアプローチ— (*)
- ・2006 鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性 (2) —質問法による解釈の事例— (*)
- ・2005 WEB 利用による授業記録の公開 (1) —学習システムとしてのWEB活用の方法— (*3)

(*1) 北海道教育大学紀要 (教育科学編) (*2) 年報岩見沢 (*3) 釧路論集第37号 北海道教育大学釧路校研究紀要